

授業科目	施設実習Ⅰ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	笠 修彰、篠木 賢一、池田 佐輪子						
授業概要	福祉施設での実習を通して次の事項を学習する機会を設定する。実務家教員として、障害児（者）支援業務に携わった社会福祉士・精神保健福祉士としての経験を活かし、学生の事前事後指導や訪問指導、配属実習先の施設職員との連携を行う。 なお、実習先では実務家による指導を受ける。 1. 施設の役割、職員の役割について説明を受ける 2. 施設の1日の流れや子どもの活動の様子を把握する 3. 子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める 4. 子どもと職員のかかわりを観察し、生活援助のありがたについて学ぶ 5. 職員間の役割分担を理解し、チームで支援することを学ぶ 6. 自立支援計画、養護計画を実施する						
授業形態	対面授業				授業方法	児童福祉施設等での実習	
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	福祉施設の役割と、そこで生活している子ども、専門職員の役割、他機関との連携、地域との連携などについて理解し報告できる。 1. 子どもとともに生活しながら、子どもを観察し、そのニーズを見出すことができる。 2. 養護・療育計画に参加し、適切な処遇のあり方について考えることができる。 3. 養護・療育計画を実施することができる。 4. 保育士としての倫理観、子どもの最善の利益を保障するための具体的な対策など、保育士の役割について説明することができる。 5. 安全及び疾病予防への配慮について考え、実践できる。 6. 職員それぞれの役割とチームワークについて理解したうえで、自分の役割を遂行できる。 7. 地域の中での福祉施設の役割について説明できる。						
理想的レベル	標準レベルに加え、以下の点に到達できる。 1. 子どもと生活をともにする中で、子どものニーズを感じ取り、適切な処遇を選択し、実施することができる。 2. 保育士としての倫理を守り、子どもの人権を尊重した対応を実践することができる。 3. 職員の協働の様子を観察し、複数の可能な行動の中から実習生として適切な行動を選択できる。 4. 職員の指導のもと、養護・療育の計画を立て、実施することができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験			0				
小テスト			0				
レポート			0				
発表（口頭、プレゼンテーション）			0				

